科学者委員会・科学と社会委員会合同広報・科学力増進分科会
（第 23 期第５回）議事要旨

１．日　時　　平成 27 年 10 月 1 日（木）12:00～13:30
２．場　所　　日本学術会議　5 階　5－C 会議室（2）
３．出席者　　小松 久男委員長、那須 民江副委員長、須藤 靖副委員長、山川 充夫幹事、佐藤 岩夫委員、嶋田 透委員、向井 千秋委員、萩原 一郎委員、渡辺 美代子委員、渡辺 芳人委員
日本学術会議事務局企画課：吉住課長、坂上、笹川
審議第二担当：石井参事官、松宮、大西、大橋、熊谷
日本学術協力財団：谷口常務理事、末次

【配布資料】
資料１　　第５回広報・科学力増進分科会出席者一覧
資料２　　第４回広報・科学力増進分科会議事要旨（案）
資料３　　『学術の動向』平成 27 年 4 月号以降の特集等掲載記事一覧
資料４　　現在寄せられている『学術の動向』特集記事等の企画案等
資料５-1　サイエンスカフェ今後の予定
資料５-2　サイエンスカフェについて
資料５-3　サイエンスカフェ講師登録一覧
資料６　　提言「これからの高等学校理科教育のあり方」（案）

【参　　考】
参考１　広報・科学力増進分科会委員会名簿
参考２　日本学術会議関連イベント　スケジュール（H27.9～）

議　事
(1)　前回議事要旨案の確認
特段の修正意見が出なかったため、前回の議事要旨を確定することとした。

(2)　『学術の動向』の編集・企画について
特集のテーマ（予定）について審議し、下記のとおり各月号に掲載する特集テーマについて執筆依頼を行うことを決定するとともに、前回までの分科会において執筆依頼を行い提出のあった企画案について承認し掲載号を決

定した。

（平成２８年１月号）
・特集２：『震災復興の今を考える：こども・文化・こころをつないで』
（企画案提出→決定）

（２月号）
・特集２：『第３回国連防災世界会議を踏まえた次世代の防災・減災』（企画案提出→決定）

（３月号）
・特集１：『社会における安全目標とその多様な展開』（企画案提出→決定）
・特集２：『病気を媒介する衛生動物とその防除』（企画案提出→決定）

（４月号）
・特集１：『再生可能エネルギーの利用拡大に向けて－再生可能エネルギーの世界の動きと日本の現状－』（企画案提出→決定）
・特集２：『求められる「脳とこころの科学」～教育・医療・モノづくり～』（萩原委員調整）

（５月号）
・特集１：『歴史教育の明日を探る－「授業・教科書・入試」改革に向けて』（引き続き、小松委員長調整）
・特集２：情報システムの利活用による農業の産業競争力向上（嶋田委員調整）

（６月号）
・特集１：『高レベル廃棄物の処分に関する政策提言』（企画案提出→決定）
・特集２：『日本語の歴史的典籍データベースと研究の未来』（企画案提出→決定）

（７月号）
・特集１：『日独シンポジウム　ダイバーシティが創る卓越性　学術界における女性・若手研究者の進出』（佐藤委員調整）
・特集２：『水素元年－新しいエネルギー社会の構築に向けて』（事務局から依頼（古谷野九州沖縄地区会議代表幹事、安浦寛人先生））

(3)　サイエンスカフェについて

・サイエンスカフェの今後の予定は以下のとおり決定された。

平成 27 年 11 月 27 日（金）渡辺（芳）委員
平成 28 年 1 月 22 日（金）那須副委員長
3 月 25 日（金）佐藤委員
5 月 27 日（金）福田委員
7 月 22 日（金）嶋田委員
9 月 23 日（金）山川幹事
11 月 25 日（金）高橋委員

・資料５-2（サイエンスカフェ講師募集お誘い文改訂版）について了承され、今後 HP 掲載作業を進めることとした。

・事務局から、HP に掲載する講師募集の「申込み・問合わせ先」にメールアドレスの掲載は困難である旨の説明があった。なお、画像化されたメールアドレスの場合の掲載可否については事務局において改めて確認することとした（確認した結果、掲載不可と判明したため、内閣府のＮｏｐｉシステムで対応）。

・今回は必要な事務作業が終了次第、10 月中にはニュースメールによって講師募集を行うこととし、今後は 4 月・10 月の総会のタイミングに合わせた講師募集を行うこととした。

(4)　高校理科教育小委員会提言（案）について

・須藤副委員長より提言案について説明がなされ、その後、以下の質疑応答があった。

〇約 37％の生徒が履修している「科学と人間生活」について、私の理想に近い指導要領が書かれている。この通りに授業が行われていれば、いわゆる「総合的な理科教育」として身近な題材から物・化・生・地のすべてに入っていける仕組みになっている。理想形がすでにあるならば、それを必修化するか、あるいは充実させて単位数を増やす等の活用ができると思う。結論そうなっていないので、その理由が書かれてあるとよい。

→種々の事情のため「科学と人間生活」はセンター試験の科目になっていない。そのため、履修されていてもあまり定着していない高校生も多いようだ。そのあたりの現状分析を含めて記述を追加する。

〇ネーミングについて「科学基礎」（仮称）と提案しているが、参考資料３にある「基礎理科」等とせず、「科学基礎」とされた趣旨を確認したい。「科学」とは、「人文・社会科学」的な観点からすれば、コミュニケーション或いは社会との関わりであるとか、もう少し幅広い使い方をするのではないかと思う。

→単に過去に提案があった「基礎理科」等とは違うということで、新しく付けたかったと理由でしかない。確かにここでの科学が狭い意味での「自然科学」に対応している点は問題であるので、「理科基礎」という仮称に置き換える。

〇大学でも総合的なサイエンスを教える様な講義は行われていない。実際の現場の人の動きを配慮して、たとえば大学におけるサイエンスを教える人についても含めて、そこまで戻って言及しながら行程表の類を作成しない限り、大学ではそういう授業は行われないし、実際に高校で教える人間も育たないと思う。

→これも仰る通りである。一方、今回は、現状を正しく認識してもらい、問題を提起することを最優先とした。その結果を見ながら、具体的な次の行程の提案という２段階で進めたいと考えている。実際、学術会議が発出した「歴史基礎」に関する提言は、２段階となっている。

〇今、高校で求められていることとして情報リテラシー等がある。これは入れなくてよいだろうか。

→　今回の理科の問題を突き詰めると、そもそも理科に限らず高校で教えられている異なる教科間の分断が、現代社会とそぐわなくなっているという現状が見えてくる。これはより大きな問題であり、今回の提言においても触れている。しかし、現実的な時間スケールを考えて、今回は理科に限り提言にとどめることとした。しかしその結果は、今後他の教科も含めた再編へつながるもの本質に関わったものだと考えている。

〇全体に関わることで、この提言は大学にも、教育界にも、文科省にも関わる。問題提起も含めた提言ならば、どこに向けて発しているのかをもう少し明示的に記載した方がよい。

→　その通りなので、序にその旨を追加する文を加える。

・以上の審議を踏まえた提言案の修正は須藤副委員長に一任され、分科会と

しては提言案について了承した。なお、修正後の提言案については須藤副委員長より分科会委員へ回覧することとした。

(5)　今後の分科会のあり方について

本議題について、各委員から次のとおり意見が出され、広報と科学力増進に関しては課題の質が異なることから、議論の内容を深めるためにも、やはり分離させたほうがよいとの結論となり、同分科会の再編に向けて動き出すこととなった。

- 今期になって、前期まで分かれて活動していた２つの分科会が合併し、１年間活動を続けてきたが、時間が限られている中で十分な審議ができないという状況がある。一方、広報関係については、いろいろな面で期待されている面もあり、２つの分科会が合同で活動している現状でよいのかという疑問がある。
- （４）の議題の中で議論がでたが、提言が指摘している理科教育が陥っている問題と同じような状況がこの分科会でも生じていないだろうか。
- 広報関係と科学力増進関係は課題が全く異なっている。限られた時間の中で議論の中身が薄くなってしまう現在の状況は看過できない。
- 向井副会長から、会長及び科学と社会委員会委員長である井野瀬副会長に現状を伝えていただくとともに、小松委員長から幹事会でも問題提起をしていただきたい。
- （新）科学力増進分科会は、従来と同様に１部・２部・３部からなる分野横断型で構成し、科学力の増進に関して深く審議し、新たな企画の可能性を模索するのが適切である。

(6)　その他

① 「学術の動向」に対し、元会員から投稿があったので、分野が関係する委員に内容を確認いただき、問題がなければ「学術の動向」に掲載することとなった。

② 「学術の動向」に掲載している地区会議の活動報告について、当初各地区のローテーションで回していくこととしていたが、今般、一度掲載した中国・四国地区会議から新たな投稿の打診があった。今後、原則としてローテーションは守るが、他の地区との関係で特段の問題がなければ、新たな投稿も受け入れていくこととした。

③ （公財）日本学術協力財団の谷口理事から本分科会の再編問題については、財団の会長等３役に報告させていただきたい旨の了承依頼があるとともに、「学術の動向」が抱える問題（有料購読者減少等の行き詰ま

り)、内容、編集体制等今後のあり方について、今後ご相談をしていきたい旨の発言があった。

以上